

令和7年度 第1回高松市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和7年7月23日（水） 14時00分～15時04分

2 場 所 高松市役所 32会議室

3 出席者 高松市長

大西 秀人

高松市教育委員会教育長

小柳 和代

高松市教育委員会委員（教育長職務代理者）

塩見 勝彦

高松市教育委員会委員

葛西 優子

高松市教育委員会委員

小方 朋子

高松市教育委員会委員

富家 佐也加

高松市教育委員会委員

和泉 憲

4 事務局

(教育委員会)

教育局長

一原 玄子

教育局次長総務課長事務取扱

黒川 桂吾

教育局次長生涯学習課長事務取扱

佐々木 啓明

教育局総務課課長補佐

西山 周吾

生涯学習課長補佐

前田 聰子

教育局総務課総務係長

唐渡 みどり

生涯学習課主事

香東 遥

教育局総務課総務係主事

太田 真緒

(政策局)

政策局長

蓮井 博美

政策局次長政策課長事務取扱

長谷山 隆義

政策局次長広聴広報・シティプロモーション課長事務取扱

多田 一夫

政策課主幹兼地域活力推進室長

藤川 盛司

政策課長補佐

好井 智哉

政策課企画担当課長補佐

齋藤 直樹

政策課企画担当課長補佐

永合 美代

広聴広報・シティプロモーション課長補佐

久保 慶浩

政策課企画員

西村 亜紀

(創造都市推進局)

創造都市推進局長

次田 吉治

創造都市推進局参事

辻下 美智子

文化芸術振興課長

平井 省三

文化財課長	川畠 聰
スポーツ振興課長	溝渕 雅春
美術館美術課長	佐藤 友香
文化芸術振興課長補佐	本多 広実

5 傍聴人 2人

6 協議事項

- (1) 二十歳のつどいの機会を活用した更なるシビック・プライドの醸成について
- (2) 文化・スポーツ施策の推進状況について

7 議事の経過

【開会】

【市長挨拶】

○ 市 長

それでは、私の方で進行させていただく。

本日は、今年度第1回目の総合教育会議となるが、「二十歳のつどいの機会を活用した更なるシビック・プライドの醸成について」と「文化・スポーツ施策の推進状況について」の2つの議題について協議を行うこととしている。

まず、協議事項1の「二十歳のつどいの機会を活用した更なるシビック・プライドの醸成について」、教育局生涯学習課並びに政策局政策課から説明をお願いする。

【議題（1）】

○ 事務局（教育局次長生涯学習課課長、政策課主幹兼地域活力推進室長）

（「二十歳のつどいの機会を活用した更なるシビック・プライドの醸成について」説明。）

○ 市 長

ただ今の説明を受け、御意見はあるか。

○ 委 員

新型コロナウイルス感染症のパンデミックがあった割には、出席者の数がそう減っていないところが幸いである。

式典に、参加型の要素を取り入れてほしい。式典に参加できない方を対象に、SNS等を活用して同時中継することで、距離を超えて参加できるため、参加する人が増えると思う。

また、二十歳のつどいの参加者が年間を通じて利用できるサイトを作り、そこに地元企業の情報を発信することで、Uターン率の増加が望めるのではないかと思う。

○ 委 員

今の若い人们は、気軽に転職をするように思う。

二十歳のつどいを活用し、高松の企業や就職先についての情報を伝えるとよいのではないか。転職のエージェント企業と組むことも良いと思う。最近の地元企業の採用情報を、二十歳のつどいに参加した大学生やこれから就職を考える人にアピールしていくのは、一つの手だと思われる。

○ 委 員

今の若者は、お盆や正月には帰省せず、二十歳のつどいには帰省する人が多い。

二十歳のつどいを活用して、このような若者のシビック・プライドを醸成するためには、高松まつりの花火大会において、若者を花火を企画するメンバーに入れたり、二十歳のつどいで高松まつりの踊り手の募集し、その学年の連を作ったりすることで、一緒に高松まつりを盛り上げていくと良いのではないか。地元に戻ってくるチャンスを多く作り、それをずっとつなげていけるようにすると良いと思う。

また、二十歳のつどいの会場で、企業の説明会をする場所を設けると良いのではないかと思う。

○ 教育長

二十歳のつどいは、開催までに何度も20歳前後の若者が集まって協議をしており、厳粛で温かみのある式典が作り上げられている。一方で、市議会から御指摘いただいたように、教育委員会が独自に準備をしている中で改善できる点がある。

本市への定住や U ターンにおいて、ある経済研究所が四国の高校生 1 万人にキャリア教育についてのアンケートを取った。それによると、地元に愛着を感じている生徒は、高校卒業後の進学先や就職先が県外であっても、約 4 割が将来の地元居住意向が強いという結果が出ていた。また、学生は家族との会話やメディアから、将来自分が働くイメージを持つようになるが、企業について丁寧に学ぶ機会は少ないという結果も出ていた。このようなことから、地元の企業を知り、将来を考える機会を増やすことが重要であるという結論が出ていた。

教育委員会でもシビック・プライドの醸成のための教育やキャリア教育に力を入れているが、今後、二十歳のつどいに参加するであろう若者は、新型コロナウイルス感染症の影響で、中学時代に職場体験学習を行っていない。そうした中で、二十歳のつどいでは協賛企業が 1 社だけということだが、このような教育委員会の弱いところを、市長部局の力を借りながら、企業に働きかけを進めていくことで、式典が始まるまでの間に、短い時間であれば、数十社の協賛企業の CM や広告を流すことができるのではないか。企業の力も借りて二十歳のつどいを盛り上げていき、企業の協賛金で、会場も県立アリーナを借りられるかもしれない。企業にとっても、二十歳のつどいをきっかけに知ってもらい、就職を考える若者がいるかもしれない Win-Win の関係で、市長部局でも働

きかけに協力いただければ、一層式典も充実するのではないかと思っている。
今後も連携をお願いしたい。

○ 委 員

二十歳のつどいは、今から就職をする若者や転職を検討しているような年代の方が一堂に集う貴重な機会であるため、地元企業と若者をつなぐ企画を考えるとよいと思われる。地元に帰りたいが、どういう仕事があるか分からぬという若者に情報提供する、貴重な機会になると思う。

会場に入ってから式典が始まるまで待ち時間があるので、企業の広告の映像を上映しているということだが、地元に就職をした方や県外の大学へ進学したが帰ってきた方など、歳の近い、自分たちの将来のモデルになるような方の話を聞ける機会があっても良いのではないか。

○ 委 員

二十歳のつどいは、お祝いと、久しぶりに会う友達との同窓会的な意味もあると思われる。

同窓会の案内は LINE で行われているということで、若者の情報を伝達していく力の素晴らしさを感じる。これを二十歳のつどいにも活用するとよいのではないか。

参加者は、当日、二十歳のつどいの式典から同窓会までタイトな時間で行動しているが、そこを考慮して、時間に少し余裕を持たせる設定ができるようであれば、その時間で企業の就職サポートや先輩からのメッセージ、出会いの場としてのマッチング等を組み合わせながら、徐々に同窓会まで盛り上がってもらうのも 1 つの取組として考えられるのではないか。

○ 市 長

二十歳のつどいは楽しいイベントに仕立てられているが、どちらかというと友達に会う、同窓会に行くのが楽しみという興味本位なところが多い。また、振袖やスーツを着ることも 1 つの目的で楽しみになっているため、それもいかさなければならない。

リターンや市内企業への就職へつなげる取組は、入り込む余地があまり無いので難しいが、機会を作っていく。高松の企業情報の案内や、たかまつホッと LINE やホームページを広く推奨する呼びかけを組み合わせていくと良いと思われる。

高松市の大学進学者のうち地元に残る人は、全国ワースト 4 位の約 17% である。一度県外に出るということは、高等教育機関の数がそれほどないため、ある程度仕方がないが、そこから香川に帰ってくる人は約 30% である。ここをもう少し増やすために、二十歳のつどいを情報発信の場として活用し、また、すぐには帰ってこられない方でも、転職の際に考えていただくきっかけとなるような思い出づくりができる、そういう意味で、将来的な定住促進に向けての重要な意義を有しているイベントの場として、有効に活用するように、今後とも考えていきたい。

また、県立アリーナが建設され、商店街の人出や県外からの観光客の数にも、非常に顕著なアリーナ効果が出ている。二十歳のつどいを県立アリーナで行うのも一つの手である。アリーナは華々しくて気分がいい、高松はいいなという思いを抱く人も多いと思われるため、検討したい。

今後、より有意義なイベントとなるような形につなげていけるように検討していただきたい。教育委員会の方でも主体的に考えていただければと思う。

協議事項2の「文化・スポーツ施策の推進状況について」に移らせていただく。創造都市推進局から説明をお願いする。

【議題（2）】

○ 事務局（創造都市推進局参事）

（「文化・スポーツ施策の推進状況について」説明。）

○ 委 員

瀬戸内国際芸術祭の春会期では外国の観光客が多く来られていたが、入場者数の増加のような実績があれば教えていただきたい。

○ 事務局（創造都市推進局参事）

春会期の来場者アンケートによると、外国の方は2割程度いらっしゃっており、外国の方でにぎわっている。

今年度実施した各事業においては、まだ集計できていないものもあるが、瀬戸内国際芸術祭に重なる5月から実施をしている「まちなかパフォーマンス事業」では、海外の方を含めて非常に多くの方に来ていただいている。

今後も8月からの夏会期に合わせ、高松市美術館でも現代アートの展覧等を行う。他のイベントや展覧会にも多くの人に来ていただけるよう、瀬戸内国際芸術祭と連携していきたい。

○ 委 員

美術館の事業予定や特別展において、具体的にどのような作業でテーマが決まっていくのか教えていただきたい。

○ 事務局（美術館美術課長）

展覧会については、例年特別展は4展を企画している。当館の学芸員が約2年前から他館での企画や開催状況を情報収集し、子どもに人気があるもの、お年寄りから子どもまで幅広く人気のあるもの、現在、特に人気を得ている作家の展示会等、バリエーションに富んだ企画を検討し、決定している。

○ 教育長

優良芸術の鑑賞機会の提供において、学校へ能楽や芸術教室で来ていただき、各学校でパフォーマンスや芸術を披露していただいている。また、小学校6年生が劇団四季のミュージカルに招待され、鑑賞ができている。

家庭によって芸術に触れる機会を持つことが難しい中、全ての子どもが芸術を鑑賞する機会を持てるということは、非常にありがたい。この事業については、継続をお願いしたい。

○ 事務局（創造都市推進局参事）

どのような御家庭のお子さんであっても、文化芸術に親しむ機会を確保するということは我々も非常に重要だと考えている。学校巡回芸術教室や高松国際ピアノコンクールと連携した事業など、お子さんが音楽や文化芸術に触れる機会は、引き続き確保してまいりたい。

○ 市 長

今後における本市の文化、スポーツ施策については、本日いただいた御意見をいかしながら一層の充実を図っていただきたい。

特に今年は、8月1日から瀬戸内国際芸術祭2025の夏会期が開催される。熱中症にならないよう注意を呼びかけなら、事故の無いよう運営できたらと思う。

○ 委 員

先日、善通寺に航空自衛隊のブルーインパルスが来たが、展示飛行ができなかった。その再挑戦として、二十歳のつどいにブルーインパルスをお呼びできたらと思う。

○ 市 長

二十歳のつどいでとなると、全国でほとんど同日程に行われるため難しいが、何かのイベントの際に来ていただけるよう考えたい。

それでは進行を事務局にお返しする。

○ 事務局（教育局長）

教育委員の皆様方には、総合教育会議に御協力いただいたこと心よりお礼申しあげます。次回、令和7年度第2回高松市総合教育会議の開催についても、よろしくお願ひ申しあげる。今後とも、御協力賜るようお願い申しあげ、閉会とする。